

■ 産学連携担当に聞く ■

良きパートナーと

実りある

関係築く

産学連携
担当に聞く

産学連携は企業と大学にとって古くて新しいテーマだ。企業は大学のシーズを利用して新製品や新技術を開発し、大学は企業のニーズを反映した共同研究などによって実践的な教育の場をつくっている。互により良いパートナーを探し、実効性を高めようとしている。東京都に立地している理工系大学などの産学連携担当に、現状を聞いた。

● 東京都市大学副学長

三木 千壽氏



—産学連携の狙いは。
「大学側の研究成果を産業界がビジネス展開するというのが典型的な産学連携のパターンで、最近はその課題を解決するタイプの連携が増えつつある。大学は長期的な視野でモノを見ていくが、産業界は短期間でリターンを期待する傾向があり、研究や技術開発のスタンスが異なっている。産学連携により大学本来の目的である人材育成が豊かになることを期待している」

—産学連携でどのような教育効果が期待できますか。
「技術や製品を企業と共同開発することで、大学の研究内容が産業界に必要な技術として磨かれ、新展開につながる可能性が高い。産業界の要求を意識することで、

周辺企業と連携

学生は実用的な考え方を身につけられる」

—中小企業との連携は進みそうですか。
「中小企業には我々が知らないおもしろい研究や技術の種があり、先端技術につながることもある。異なる背景の人々が議論することで、新しいアイデアが生まれる。地の利を生かし、東京都大田区を含む城南地区、川崎、横浜などの中小企業との関係を強めた」

—具体的な取り組みは。
「産学連携の拠点となる総合研究所で、大規模集積回路（LSI）や水素燃料自動車の開発などの研究で成果を上げた。最近はいんフラの老朽化問題に取り組んでいる」